2015年度ポカラプロジェクト現地理事会等への出張報告　山下泰子・山下威士

今年も、8月24日（月）～9月2日（水）まで、ネパールに出張してきました。

**＜JICAネパール事務所訪問＞**8月26日（水）9:30-11:00、JICAネパール事務所を訪問し、前半は、清水勉所長、富松愛加さん、Ang Passag Sherpaさんと、「フィーダーホステル耐震化リニューアル案」について意見交換をし、後半は、NGOデスクの西前紀和子さんと打合せをしました。10月に「ステップ・アップ事業｣の報告に、岩谷栄子、深田洋子両理事が、JICA事務所をお訪ねすることを申しあげ、11月にJICAのプロジェクトで訪ネする日本の教育行政官一行がさくら寮を訪問したいとのことを了承しました。

**＜Krishnaさん、Manjuさんとの会談＞**　8月27日（木）13:00-15:00、さくら寮でKrishna Khatiwada現地マネージャーとManju Dhoju 寮母と、今後のさくら寮の運営について話し合いました。①Krishnaさんの故郷のDhading郡が4.25大地震の被災地となったことから、彼は郷里の復興のために働くことを希望され、彼とのマネージャー契約を、11月末をもって解消することにし、その後は、Manjuさんが、2017年6月まで寮生が居る間は、マネージャー業務をも兼務することになりました。これまでのKrishnaさんのお仕事に感謝し、Manjuさんによろしくお願いする次第です。②大きな問題になったのは、2016年度のフォローアップ研修の実施と「10周年記念行事」の日程でした。日本側の希望する11月は卒業生教員が学校を休めないとのことで、例年どおりDasainとティハールの間の

10月17,18,19日フォロ－アップ、20日に10周年記念行事をすることに決まりました。

**＜Bharijoo先生との予備交渉と現地理事会の開催＞**　①8月27日（木）15:00-17:00、KCP4階会議室で、Surendra Bahadur Bharijoo 先生と、山下泰子、山下威士、JNFEA現地マネージャーKrishnaさん,寮母 Manjuさん,KCP会計係 Krishna Tamrakarさんの6人が出席して、理事会に向けて予備交渉を行いました。

②8月28日（金）11:00-1300、ポカラ･プロジェクト現地理事会が、さくら寮ホールで開催されました。出席者は、ネパール側は、理事長Yogendra Lal Pradhan（KCP理事長）さん、運営委員会委員長Bharijoo （KCP理事）先生、 KCPの新学長に就任されたSuresh　Kumar　Manandhar先生、新しくカニア・スクールの校長先生になられたGansh Prasad　Poudel先生。日本側は、山下泰子（JNFEA理事長）、山下威士が出席し、それに、（飯森）紘子Tulachan理事と吉田俊吾理事とが、委任状を提出。陪席は、JNFEA現地マネージャーKrishnaさん,寮母 Manjuさん,KCP会計係 Krishna Tamrakarさんでした。

1. 最初に、新理事として、Manandhar先生とPoudel先生の紹介がありました。
2. Bharijoo議長より、「ネパール会計事務所報告書」にもとづく2014年度会計報告がありました。
3. 寮生選考委員会委員長でもあるBharijoo議長から、今年のさくら寮第10期生の選考委員会（7月17日開催）の選考結果の報告がありました。

(4)　山下（威）より、昨日のBharijoo先生との予備交渉を踏まえての訂正を含んでの2015年度さくら寮予算の概要を説明。観光地Pokharaにおける諸物価の高騰が話題になり、食費の値上げが話題になり、ある程度考慮せざるを得ないと思われました。また、昨年度の途中に開始した、政府の教員採用試験に対応するために、卒業生教員が、居所の近くの予備校に通って、試験の準備をする費用を助成するプランは、好評のために、今年は大幅に拡充することにしました。

(5)　山下（泰）JNFEA理事長より、JNFEAの近況を報告。まず、4.25大地震について、お見舞いのことばが述べられ、JNFEAとしても、大地震義捐金を、5月1日より7月31日まで、日本全国に呼びかけ、その集った義捐金を、被害を受けた、さくら寮卒業生教員、その勤務先の学校、さらには、関係の学校にお贈りしたことを報告しました。また、第4期日本留学生Sujata　Acharyaさんが、1年間の日本での研修を終えて、無事に帰国したこと、彼女が、日本各地で大活躍をし、非常に良い印象を与えたこと、第5期留学生として、Kamala　Gurungさんが、日本に到着し、新井場貞子理事の自宅で、１か月間日本語研修と日本の暮らし体験を行ったことを報告しました。

さらに、さくら寮の今後の運営について、2017年7月以降は、さくら寮の維持･管理の責任は、基本的にKCPとなるが、従前からの約束に基づき、本プロジェクトの終了する2020年6月までは、秋のフォローアップ・セミナー（1週間程度）に使用させてもらいたいこと、および、2020年6月の本プロジェクト終了までは、さくら寮の２階の、現在、Manjuさんが使用している部屋を、JNFEAの事務室（備品･資料置き場）として、利用させてほしいと提案しました。

また、来年2016年秋のフォローアップ研修時に、「さくら寮開設10周年式典｣を開催したいという企画が語られました。来年は、「日本とネパールとの国交樹立60周年」に当たり、さらには、「KCP開設25周年」にもあたることから、併せてお祝いしたいということになりました。

(6)　 KCPの新学長・Manandar先生から、ごあいさつがありました。とくに、今回の大地震では、KCPも、大きな被害を受けたこと、その改修に、JNFEAの力をお借りしたいとのこと、より具体的には、現在、被災地から、KCPに入学を希望する学生が３名いるが、JNFEAの協力を得られないかと語られました。これらについては、山下（泰）理事長が、検討を約束し、3名の入学希望者については、後に、Manjuさんを通じて、KCPと協議し、大地震義捐金から初年度納入金を支援することにしました。

(7)　最後にPradhan理事長より、締めくくりのあいさつがありました。

**＜理事長による新入生の個別面談・「二十四の瞳」について＞**①8月28日（金）13:30-15:30、さくら寮で、例年のように、山下理事長が、最後の新入生に対して個別面談を行いました。

②8月29日（土）13:30-16:00、さくら寮で、寮生全員で、「二十四の瞳」の大石先生について語り合い、遠隔地域の女性教員の使命についての自覚を促ししました。

**＜新入生歓迎パーテイ＞**　8月28日（木）17:00-20:00、タカリ・レストランKaligandakiで、にぎやかに新入生の歓迎パーテイを開催しました。この費用は、宮原巍ポカラ･プロジェクト理事からのご寄付から支出しました。

**＜大使公邸での小川正史大使との会談＞**　8月31日（月）18:30-21:00、日本大使公邸で、小川正史大使主催の夕食会に招かれました。この会談は、食前の歓談、夕食会、解散後の、日本大使館メンバーだけの会談の3部に分かれて行われました。JNFEAの目的を、深く理解してくださった小川大使が、私どもだけでなく、私どもの課題に関係する重要な方々と一堂に会する機会を作ってくださったのはありがたいことでした。出席者は、小川大使、大使夫人、矢富利夫・一等書記官、中野卯一郎・二等書記官、西谷知佐子・二等書記官の大使館メンバーと、ネパール側として、Hari　Prasad　Lamsal教育省教育局長、ネパール教育界で最高顧問的な位置をもっていらっしゃるKedar.B.Mathema元・駐日ネパール大使、それに、日本とネパールの双方の教育界の事情に通じているAmira　Daliラブ・グリーン・ネパール代表が、招待されました。

山下（泰）理事長より、今回のネパール訪問の目的は、現地理事会の開催と合わせて、大地震への対応、とくにFeeder　Hostelの再建についての協議を行いたいことにあると説明。それに対して、Hari教育省教育局長より、教育省としても、女性の教育は、重要と考えているが、その政策の中でも、Feeder　Hostelを現在のままの目的に使用するのではなく、人身売買の被害者の収容施設や、父母のない子どもたちのための養護施設にしたいという考え方もあると説明されました。基本的に、この大使館の会談全体を通じて、Mathema大使は、私たちの提案をサポートしてくださいましたが、教育省に限らず、JICAも、大使館も、Feeder　Hostelリニューアルへの助成の姿勢は、弱いものと思えました。

**＜女性教員養成制度の構築：政策提案＞**　会談の中で**、**小川大使から重要なご指摘をいただきました。それは、現在、設立目的のあいまいになっているFeeder　Hostelに対応するよりも、JNFEAの本来の目的である「ネパールにおける女性教員養成制度の導入」そのものを、具体的には、「女子師範学校制度の創立」を提案したほうが、適切ではないかというご示唆です。もちろん、そのような、大きな制度が、短い期間でできるわけはなく、多くの専門家の叡智を集めることが必要となろうが、それにしても、誰かが、その口火を切らない限り、歩みは始まらない。その意味で、まさに、JNFEAこそは、さくら寮での10年間の実績を背景に、そのような政策提案をするのに、最適ではないか、ともおっしゃいました。大地震のお蔭で、幸か不幸か、ネパールに注目の集まっている現在、しかも、現・安倍政権が、女性の教育を、最重視していることからも、そのような政策提言は、日本政府としても、十分、検討に値するはずだとも語られました。

もちろん、2000年3月のJNFEAの国際シンポジウムでも、「女性教員養成制度の構築」というのが、その政策提言の中心にありました。そのことからすれば、この小川大使のご示唆は、JNFEAにとって、まことに、適切なものであり、この政策提言こそが、私たちのプロジェクトの成果となるべきものです。是非、来年のさくら寮10周年式典で具体案を発表したいと思います。

なお、以上の公式の訪問以外にも、多くの知己とお会いでき、楽しい時間を持てました。

・8月25日～26日/8月30～9月1日、ホテル･サンセット・ビュー滞在中、トラチャン・ヒロコさん、アヌ･トラチャンさんとお会いし、意見交換をさせていただきました。アヌさんには、8月26日のJICA訪問にも同行していただきました。

・8月25日（火）・31日（月）、モンタディオコンサルティングの菅沼一夫さんとお会いし、さくら寮へ防災教育の指導に行ってくださることになりました。

・8月29日（土）には、Bharijoo先生のお宅に昼食に招かれました。この日は、9種の豆を食し、手に赤い紐を巻いて、家内の安全を祈るお祭りとのことでした。

・8月30日（日）午後、アミラ･ダリさんがホテル･サンセット・ビューを訪ねてくださり、意見交換できたのは、幸いでした。

・8月30日（日）には、Mathema大使のお宅に夕食に招かれました。Mathema大使は、ネパール教育界の最高の専門家・学識経験者として、いわゆる「Mathema　Report」（ネパールの看護担当者・医者の教育･養成体制、とくに新医学部の創設についての意見書）を、先週、政府に提出されたところで、非常にご多忙でした。（私どもの滞在中の、新聞紙上での連日の報道は、このレポートへの対応と、新憲法における連邦制の数―「７」に収斂しそうですーをめぐる問題に集中していました。）にもかかわらず、JNFEAについて、相変わらず親身になって相談に乗ってくださいました。

・8月30日（日）・31（月）Nature and Creation のネパール駐在、渡辺悠里さんにお会いしました。若い女性のネパールでの活躍がうれしいです。

・8月31日（月）午後、毎日新聞の武内彩記者と磯島健太郎カメラマンにお会いし、さくら寮でのインタビューや西ネパールでのチャウパディ調査について情報交換をしました。